
隣のデカブツ

百々枝浩大

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
隣のデカブツ

【Nコード】
N8725R

【作者名】
百々枝浩大

【あらすじ】
受験で出会った、先輩のようになると心に誓い入学したものの、憧れの先輩は実は身長がやたらとデカい同級生だった。やたらと小さい高校生とやたらとデカい高校生の恋愛…のはず。

第1話：ハンカチと出会い

4月、出会いの季節です。

桜舞い散る校庭を見つめる俺。

みなさんどうもはじめまして、唐突ですが、

俺、鈴嶋^{すずしま} 智^ち 高校一年生。

人捜してます。

それは3月の高校受験の時のことでした。

俺は受験にビビり、緊張のあまり気分が悪くなり

『吐き気・眩暈・頭痛』の三点セットと共にトイレに駆け込みました。

そんな時あの人は現れました。

洗面台にもたれ掛りながら顔が真っ青になりこめかみを押さえていた俺に、青いチェック柄のハンカチが差し出されたのです。

どうやら、俺が受験を受けた高校の生徒つまり俺より年上の人が差し出してくれたようでした。

短めの綺麗な真っ黒い髪にすこし鋭い真っ黒い瞳、俺よりも二つ分も大きな身長、体つきもやしみたいなの俺とは違いしっかりとしていてあげく結構足が長いです、まあとりあえず総合すると男の俺から見ても、かつこよかったのです。これこそ男の中の男、まさしく俺のなりたい理想の高校生NO.1です。

そして彼はこう言いました。

「大丈夫か？」

声もかつこよかったです。

受験への緊張で死にそうだった俺にはもはや神の救いのように見え、心なしか彼の後ろに後光が差して見えました。

というか、たった一、二年差で俺みたいなのちんちくりんとは大違い

です、とりあえずその時の俺は高校生に声をかけられたことで固まりました。妙にでかいので威圧感が漂っているように見えたのです。「？本当に大丈夫か？」

固まった俺に首を傾げながらもう一度問いかけました。
いい人です。

「あ、えつと、」

ハツとしてなにかしら言葉を返そうとしたのですが、

「気分が悪いんだったら、あまり無茶をしない方がいい」

そう言うとは俺の右手にハンカチを優しく握らせて颯爽とトイレから出ていきました。

最後に一言言い残して

「そうだ、頭痛の時は梅干をこめかみに貼り付けるといい」
残された俺はというと

「か、カッコいい」

三点セットは跡形もなく吹き飛んでいました。

その後、ハンカチを返すことをすっかり忘れ、そのまま帰ってきた俺はハンカチを見つめながら決めました。

高校生になったら、あのハンカチの 君きみ(命名：俺)のように素敵でカッコいい男になることを。

そう！もうチビとは言わせない！高校生になればこの150cmの視界からも抜け出せるはず！

母親ゆずりのカッコいいよりも可愛いといわれることの多い顔も遅しくなる…はず。

彼女だってできる、きつと！

そして、そのためにはまずハンカチの君にあの日貸していただいたハンカチを返さなければなりません。できればそのまま友達、いや、弟子にしていたきたいところです。

受験は見事に合格しました。これでハンカチの君と同じ学校に通えます。

新しい制服に、新しい校舎、新しいクラスメート

冒頭で言った通り現在ハンカチの君を捜している俺ですが、とりあえず教室に向かおうと思います。

入学式ですから、先輩であるハンカチの君が容易に見つかるはずがないと思っただからです。

ハンカチの君は、入学式が終わってから探すことにします・

桜が舞い散る校門をくぐり抜け、これから俺のバラ色の高校生活が始まります。

意気揚々と俺のクラス1-Bに入り俺の席は窓から二列目の一番後ろのようです。

左隣の席、つまり窓際にはすでにだれか座っているようです。さつきから隣のやつは窓の外を見つめています。

人間第一印象が大事といえますので、しっかり挨拶をしておこうと思います。

さあ、笑顔を作って、いざゆかん

「俺、隣の席の鈴嶋って言うんだけど、今日からよろしくな!」
元気よく挨拶できました。

にしてもこの隣の席のやつ、やたらデカいです。

ハンカチの君並みのデカさです。これで同い年っていうんだから世の中不公平だ。

隣の席のやつが振り向きま

す。
「ん? ああ、俺は榎本 えのもと 和希 かずき」

どっかで、聞いた声にどっかで見た顔、

短い黒髪にすこし鋭い黒い瞳、

俺よりも頭二つ分はデカい凶体、

憧れのハンカチの君は、

「今日から一年間よろしく」

同じ年で隣の席でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8725r/>

隣のデカブツ

2011年10月5日11時10分発行